

## 第 15 期定時株主総会兼普通株主様による種類株主総会 質疑応答要旨

第 15 期定時株主総会兼普通株主様による種類株主総会に関し、事前に頂戴したご質問及び当日株主さまから頂戴したご質問につきまして、その要旨を掲載いたします。

- ▶ 開催日時： 2026 年 6 月 19 日（金） 10:00～11:52 （所要時間 1 時間 52 分）
- ▶ 開催場所： 三井住友信託銀行本店ビル 5 階 会議室
- ▶ 来場株主数： 156 名

### < 事前質問要旨 >

①	三井住友信託銀行の店舗戦略について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行の店舗戦略について、今後の強化策の具体的内容と方向性を教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行の店舗戦略は、(1)既存店舗の最大限の活用及び次世代型店舗への転換、(2)デジタルチャネルとのハイブリッド化、(3)店舗網の将来的な拡大、の 3 点を柱としている。</li> <li>・(1)については、事務に関する機能を削減し、お客さまとのコンサルティングに特化した信託型次世代店舗への改装を進めており、半個室型ブースの導入等、顧客のプライバシーに配慮した相談環境の整備を行っている。</li> <li>・(2)については、お客さまのニーズに合わせたハイブリッド型のコンサルティング体制を構築するため、全拠点にオンラインで相談いただける窓口を整備するとともに、オンライン専用拠点であるオンラインコンサルプラザの設置も進めている。</li> <li>・(3)については、各エリアのマーケットの成長性や対面でのコンサルティングニーズを踏まえた店舗網の拡充も検討している。</li> <li>・加えて、住信 SBI ネット銀行及び NTT ドコモとの協業を通じて当グループの顧客基盤を拡大していく。</li> <li>・これらの取り組みを通じ、お客さまの利便性及び満足度の向上を図る方針である。</li> </ul>

②	AI の発展に伴うサイバー攻撃の増加懸念に対する当社システムの脆弱性対策について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 技術の進展によりサイバー攻撃の高度化・増加が懸念される中、当社システムの脆弱性対策について教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当グループでは、CSIRT（サイバーセキュリティ対応専門組織）の設置、多層的なサイバーセキュリティ対策や外部専門機関による侵入テストの実施等により、サイバー攻撃に対し一定の強度を有する防御体制を構築している。</li> <li>・加えて、AI の進展によりハードウェア・ソフトウェアの脆弱性の発見が容易となることが想定される中、2026 年 5 月に公表された金融庁の要請も踏まえ、修正プログラム適用プロセスの迅速化・高度化や、システムの優先度管理の強化、システムの停止を想定した対応整備等を集中的に進めている。</li> <li>・当グループはサイバーセキュリティを経営の最重要課題の一つとして位置づけており、お客さまの資産の保護を最優先に、AI を活用した防御強化策の導入や他社との</li> </ul>

	連携も視野に入れながら、総合的なリスク低減に向けた取り組みを進めていく方針である。
--	---

<b>③</b>	<b>社外取締役が当社の株式を保有することに対する考え方について</b>
質問	・社外取締役が三井住友トラストグループの株式を保有することについての基本的な考え方を教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社では、「取締役候補者に求める資質等の考え方」を定めており、その中で社外取締役候補者については、「当社の経営理念、信託グループとしての社会的責務や役割に十分な理解を有するとともに、当社に定める独立性判断基準を満たし、一般の株主さまとの間で利益相反が生じるおそれのない者」、「当社の経営を監督し、的確・適切な意見・助言を行い得る者」としている。</li> <li>・その上で、株主の皆さまと同様の視点、すなわち企業価値や株価の向上を意識した経営は重要であると認識しており、社外取締役からも、中長期的な企業価値向上に資する施策について、取締役会等において意見や助言をいただいている。</li> <li>・その観点から、社外取締役による当社の株式保有には一定の意義があると考えているが、一方で客観的な第三者として当社経営を監督する役割も重要と考えている。</li> <li>・なお、社外取締役を含む役員については、原則として当社株式の自己売買等が出来ない仕組みとなっているため、就任時には任意で持株会への加入を案内している。</li> </ul>

<b>④</b>	<b>政策保有株式の削減を進める理由について</b>
質問	・取引先との関係もある中で政策保有株式の削減を進める理由について教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行では2021年度以降、政策保有株式は原則保有しない方針を掲げ、2026年3月末までの5年間で約50%（簿価ベース）を売却している。</li> <li>・削減の背景として、「日本の資本市場の透明性向上及び発展への貢献」、「当社の自己資本に占める政策保有株式の時価割合の低下による財務基盤の改善」、「売却資金を活用した社会課題解決にも資する成長投資の推進」の3点がある。</li> <li>・なお、売却にあたっては取引先との長期的な信頼関係の維持・向上を重視していることから、取引先との丁寧な対話を重ねて進めており、現時点で取引関係への顕著な悪影響は確認されていない。加えて、三井住友信託銀行の法人事業の2025年度の粗利益は過去最高水準となっており、取引先との新たな信頼関係が構築されている結果と認識している。</li> <li>・また、当社は2026年度より株主還元方針を変更し、総還元性向50%以上を目安に株主還元を行う方針としている。政策保有株式の売却による利益も、その50%以上を株主の皆さまに還元するとともに、成長領域への投資を並行して行っていく。</li> <li>・今後も取引関係の維持・強化と政策保有株式削減の両立を図り、企業価値向上につなげていく方針である。</li> </ul>

<当日質疑要旨>

①	定款に優先株式の発行が規定されている理由について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社は優先株式を発行していないと認識しているが、定款上では優先株式を発行可能としている理由について教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社では優先株式の発行を定款上規定しているが、現在、発行は行っていない。</li> <li>・優先株式は議決権の有無や配当優先順位等を柔軟に設計できる株式であり、一般に資金調達手段の一つとして活用されるものである。</li> <li>・企業としては将来の資金調達の選択肢を確保しておくことが重要であり、必要に応じて機動的に発行できるよう、あらかじめ定款に規定している。</li> <li>・現時点で当社の財務基盤に問題があるものではないため、ご安心いただきたい。</li> </ul>

②	三井住友信託銀行のファンドラップの運用方針及び差別化戦略について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行のファンドラップについて、証券会社との違いを含めた差別化のポイント及び運用方針について教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンドラップは、顧客ごとの資産状況や投資目的、リスク許容度等に応じたポートフォリオを三井住友信託銀行が設計の上でご提案し、お預かりした資産の具体的な資産配分や銘柄選定を同社へ一任いただいて運用するサービスである。</li> <li>・三井住友信託銀行のファンドラップの特徴は、信託銀行として年金運用等で培ってきた機関投資家向けの高度な運用ノウハウや運用体制を個人のお客さま向けサービスにも活用している点にある。また、運用開始後の継続的なフォロー体制を含め、お客さまの中長期的な資産形成を重視したサービスを提供している。</li> <li>・ご提案するポートフォリオのリスクの幅やリスクあたりのリターン観点において、一般的な証券会社のサービスとは異なる特性を有しているものと認識しており、インフレ環境下における中長期的な資産形成に適した商品として提供している。</li> </ul>

③	木質バイオマス発電の燃料調達に係る考え方について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行が融資を行う木質バイオマス発電事業の燃料調達において、熱帯林や天然林を伐採した燃料を使用しない方針を明確にするとともに、既存融資先に対して同内容を求めることが可能かどうか教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電については、脱炭素化に資する再生可能エネルギーとしてこれまで融資等に取り組んできた分野である一方、環境・社会面の課題も認識している。</li> <li>・当社では2024年に木質バイオマス発電に関するセクターポリシーを策定し、原生林伐採等の環境リスクを明確に認識したうえで、新規案件について審査・管理を行っている。また、生物多様性への影響等についても、ポリシー外の部分ではあるが、社内に内部規程を設けて対応できる体制としている。</li> <li>・既存案件については、第三者認証の取得状況の確認や外部情報に基づくデューデリジェンスを実施し、環境・社会リスクが認められる場合には、現地確認や事業者との対話を通じて改善を求める等の対策を実施している。</li> <li>・今後も環境及び社会への影響に十分配慮しつつ取り組みを継続していく。</li> </ul>

④	プライベートクレジット投資等に係るリスク管理について
質問	・プライベートクレジットやプライベートエクイティ市場において解約制限や運用不調等の事例が見られる中、リスク管理体制について教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライベートクレジットについては企業への直接的な資金供給ではなく、主にファンド経由で資金提供を行っている。投資判断にあたっては、市場環境、信用リスクに加え、流動性リスクや時価評価の難しさ等も踏まえ、多面的な観点から検証している。</li> <li>・具体的には、投資にあたりファンドの運営体制や投資家構成等を含めた詳細な調査を実施するとともに、投資後も投資資産の状況に加え、資金回収の状況や市場流動性を含め継続的にモニタリングを行っている。</li> <li>・現時点で元本回収不能となっている案件はないが、今後も各種リスクを慎重に評価し、資産の健全性を確保していく。</li> </ul>

⑤	コンプライアンス意識向上に向けた取り組みについて
質問	・社員のコンプライアンス意識向上に向けた具体的な取り組みを教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当グループでは、グループ共通のコンプライアンスマニュアルを策定し、研修や勉強会等を実施している。また、具体的な実践計画であるコンプライアンスプログラムを定期的に策定し、FD・コンプライアンス統括部がその実施状況を検証の上、経営会議等に報告している。</li> <li>・加えて、取り組みの実効性を向上させるために「Listen Up」「Follow Up」「Speak Up」の「3up活動」を推進するとともに、ホットライン制度の充実、利用の活性化を進めている。ハラスメントのみならず、不適切な業務運営についても現場から直接声が上がる体制とすることで問題の未然防止に努めている。</li> <li>・教育・研修と現場の声の両面からコンプライアンス意識の徹底を図るとともに、コンプライアンスに関しては企業風土の構築が極めて重要であることを認識し、健全な企業文化の醸成を図っていく。</li> </ul>

⑥	株主優待の検討状況について
質問	・株主優待制度の新設に関する検討状況について、教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社では、中長期にわたり当社株式を保有いただける個人株主の増加に向け、個人投資家向け IR 説明会や株主向けイベントの開催、株式分割による投資単位の引下げ等に取り組んでいる。</li> <li>・株主優待制度については、個人株主の増加に向けて一定の効果があるものと認識しているものの、優待を受けられない株主との公平性も考慮する必要があるため、慎重に判断するとともに、現時点では安定的な配当による株主還元を重要な経営方針として位置づけている。</li> </ul>

⑦	<b>政策金利の引上げによる業績への影響について</b>
質問	・日本銀行による政策金利の引上げが当社業績に与える影響について、教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策金利の引上げに伴い市場金利が上昇し、預金金利の上昇がそれを下回った場合には利ざやの拡大が期待できる。当社試算では、0.25%の利上げにより年間の業務純益が約150億円増加する見込みであり、利上げは収益面でプラスの影響を及ぼす。</li> <li>・加えて、利上げと並行してインフレが進む環境下では、資産運用・資産管理、不動産関連事業といった信託ビジネスにおいても、信託報酬等の増加による間接的な収益向上効果が期待できる。</li> <li>・なお、一般的に金利上昇局面においては債券価格の下落というマイナス効果があるが、前年度に低利回りの債券から高利回りの債券への入替えを実施し、債券ポートフォリオの健全化を進めることで、評価損を極小化し、リスクの低減を図っている。</li> </ul>

⑧	<b>生成AIの脅威への対応について</b>
質問	・生成AIの発展に伴うサイバーセキュリティ面の脅威の増加等への当社の対応方針について、教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的なAI技術の拡大や他社における対応状況等に関する報道は認識しており、当グループでも情報収集を進めている。</li> <li>・当グループでは、多層防御や外部からの侵入テスト等を含むサイバーセキュリティ対策を講じており、現時点において一定の防御力を有していると考えている。</li> <li>・AIによる脅威は十分認識しており、今後も先進的なAI技術の研究・導入を進めるとともに、他社との連携等を通じ、安全・安心なAI活用に取り組んでいく。</li> <li>・サイバーセキュリティは当グループの経営上の最重要課題の一つであり、引き続きしっかりと対応していく。</li> </ul>

⑨	<b>木質バイオマス発電事業における人権・環境問題への対応について</b>
質問	・木質バイオマス発電事業に関連する人権問題及び環境問題への対応について、教えてほしい。
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社では人権デューデリジェンスの枠組みを整備し、人権問題に対しては同枠組みを通じて対応している。また、環境や人権に関する外部団体との定期的なコミュニケーションを通じ、情報収集を行っている。</li> <li>・個別案件については守秘義務の観点から説明を控えるものの、一般的に人権デューデリジェンスの枠組みを通じて実態調査及びリスク評価を行い、必要に応じて取引先との対話を通じた改善を促している。</li> <li>・また、既存案件において違法性が疑われる場合においてもリスク評価を行い、環境や社会への負の影響が大きい場合には、事業者に対して代替調達の検討を含めたエンゲージメントを実施している。</li> <li>・脱炭素化やエネルギー安全保障の観点から、再生可能エネルギーに係る取り組みを推進する一方で、環境や社会への負の影響にも十分配慮しながら取り組んでいく。</li> </ul>

⑩	三井住友信託銀行における高齢者向けサービスの取組方針について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会の進展を踏まえた、三井住友信託銀行の高齢者向けサービスの今後の取組方針について、教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度からの新中期経営計画において、三井住友信託銀行の個人事業では「ファイナンシャル・ウェルビーイング」を基本的な考え方として掲げ、お客様の資産や生活に関する不安を解消し、しっかりと将来に向き合っていただけるように、幅広い選択肢の提供と意思決定の支援に取り組んでいる。</li> <li>・世代ごとに資産の状況や生活に関する課題は異なることから、世代別の課題に対応するソリューションや商品・サービスを取り揃えている。また、「人生100年応援部」を設置し、人生100年時代に対応したサービス提供に注力している。</li> <li>・具体的には、シニア層に対し遺言信託、相続関連サービス、安心サポート信託や後見制度支援信託等を通じて、総合的なコンサルティング・支援を行っている。</li> <li>・今後も、相続前から相続発生時、承継後までを含めたワンストップサービスの提供に向け、人材育成や商品・サービスの強化を進めていく。</li> </ul>

⑪	三井住友信託銀行のエクイティ投資に係る投資方針及びリスク管理について
質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井住友信託銀行におけるエクイティ投資の具体的な投資分野、投資規模及びリスク管理体制について、教えてほしい。</li> </ul>
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当グループは社会課題解決型ビジネスの推進に向け、日本企業の成長支援を目的としたエクイティ投資に取り組んでいる。</li> <li>・主な投資対象としては、再生可能エネルギー、次世代エネルギー、船舶・航空機、地域開発、データセンター及びアリーナ等がある。</li> <li>・投資規模としては、年間約500億円規模の投資を実施しており、今後も多様な投資機会を捉えていく方針である。</li> <li>・リスク管理体制については、個別投資時の審査に加え、投資後のモニタリングと管理を通じて適切なリスク管理を実施している。</li> </ul>

以上